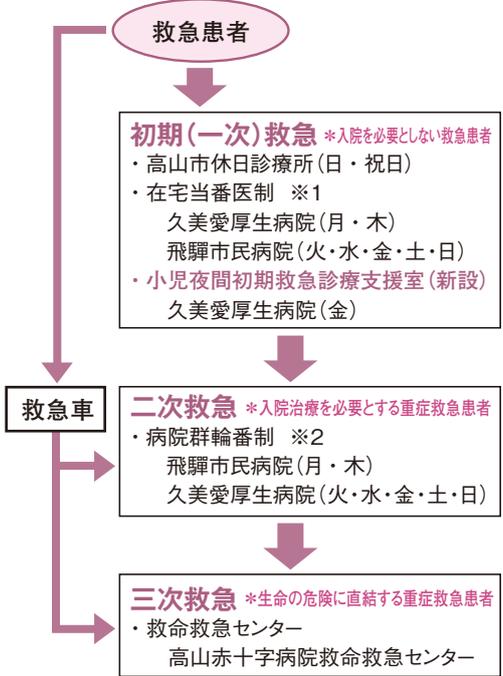
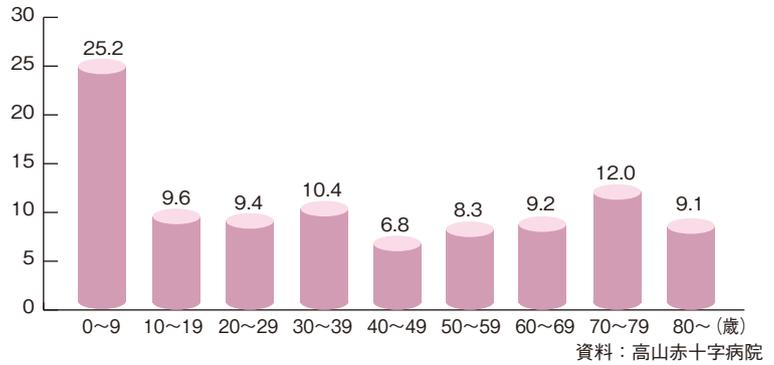


表-③ 救急医療連携のしくみ



※1 入院を必要としない比較的軽症の患者を診療するため、医療機関が当番日を決めて診療を確保する制度
 ※2 手術や入院治療を必要とする重症患者を受入れるため、病院が当番日を決め診療・専用病床を確保する制度

表-② 救命救急センター受診者の年齢別割合(H19)



勤務となるため、疲労感も増しています。本来、病院として提供すべき救急医療体制の確保が困難になっているのです。

タクシー代わりに救急車

一方、救急医療を考えると、切り離せないのが救急車の存在です。救急車の出動件数は年々増加傾向にあり、平成19年の件数は3224件で、前年度と比べると49件増加。市民の30人に1人が救急車の出動を要請していることとなります。(4ページ表④参照)

平成19年に救急車で搬送された方のうち、重症患者は2割弱で多くは症状の軽い方です。症状が軽い方の中には、タクシー



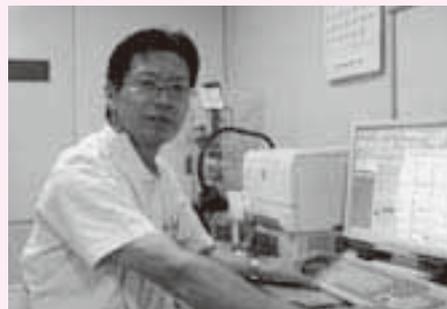
高山消防署救急課
なかにし かずや
中西 和也さん

消防署員になって17年になります。勤務中は常に緊張感を持ち日々過ごしています。災害現場へ向かう車両の中では、指令室から入ってくる無線情報をもとに、患者の症状などをイメージして現場に向かいます。

救急車は本来、命に関わるような病気やけがをした方を一刻も早く病院に搬送するためのものです。みなさん自身の安心のために、救急車の適正な利用をお願いします。

現場からの声

みなさんの安心のために
適正な救急車の利用を



高山赤十字病院救命救急センター長
しらかし たかし
白子 隆志さん

医師・看護師不足、さらに医療経済の悪化はととも深刻で、救急医療体制を縮小する地域が増えています。しかし、当院は飛驒地域の最後の砦として、「いざというときに」住民のみなさんが安心して暮らせるようにスタッフ一同24時間365日対応しています。

「お大事に」「ありがとう」の関係が、飛驒地域唯一の救命救急センターを守る大きな力になります。ご理解とご協力をお願いいたします。

現場からの声

飛驒地域で唯一
救急・災害時の最後の砦